

3 - (3) 新潟県

1 米の品質や指導の状況

(1) 13年産米の品質状況

12年産米は品質建て直しの取組により、平年並みの品質を確保したところであるが、13年産米の2月末日現在の1等級比率は、水稻うるち玄米全体で72.0%と、昨年同期(82.2%)に比べて10.2ポイント低くなっている。また、主力品種のコシヒカリは75.0%と、昨年同期(87.6%)に比べて12.6ポイント低くなっている。

コシヒカリを計画出荷米の地域区別に見ると、一般地域70.9%、魚沼地域94.8%、岩船地域89.1%、佐渡地域83.9%となっており、地域間で差が生じている。

平坦地域が主体である一般地区コシヒカリの品質が振るわない理由は、今年産米は生育が順調に推移し、茎数が平年より多く、このため籾数が多くなったところに、8月中旬から平年並の夜温となって稲体の消耗もなくなり、本来ならば遅く出た穂に付いている「しいな」となる籾へも養分転流が進み、この結果、米となる籾数が増加して収量増になったが、一方、登熟のための養分の全籾間での競合が起こり、全般的に品質を低下(乳心白粒、未熟粒の発生)させたものと分析している。

逆に、魚沼や岩船の中山間地が主体の地域は、気象条件や田植え時期が遅いという特徴から平坦地域ほど茎数がとれにくいために、籾数も適正な範囲(1㎡当たり2万8千粒程度)におさまり、品質低下が起こっていない。

また、早生品種全体の品質が振るわない中、本年から本格的な生産を開始した「こしいぶき」については、県として初めて生産者登録制度を採用し、栽培指針に即したきめ細かな栽培管理が実践されたこと、品種の特性として高温登熟性に強いことから、乳心白粒の発生が少なく、主要品種の中で最も高い1等米比率となっている。

表：13年産主要うるち品種の検査数量と等級(計画外米を含む全量)

種類・品種	区分	検査数量 (トン)	等級比率(%)			
			1等	2等	3等	規格外
水稻うるち玄米	13年産	395,549	72.0	26.5	1.1	0.4
	昨年同期	386,107	82.2	15.9	1.6	0.3
コシヒカリ	13年産	332,800	75.0	24.3	0.4	0.1
	昨年同期	322,664	87.6	11.6	0.6	0.3
ゆきの精	13年産	26,225	64.3	33.9	1.6	0.2
	昨年同期	28,744	67.6	29.6	2.4	0.4
こしいぶき	13年産	4,169	85.9	12.8	0.6	0.7
	昨年同期	-	-	-	-	-

注) 13年2月末日時点のデータである

(2) 平成13年における指導について

重点技術対策

推進項目	推進内容	目標
1 早期田植えの 是正	(1) 早播きの是正 (2) 適期田植えの推進	・平坦地 5月10日頃、中山間地 5月15日頃の田植え
2 適正な品種構成	(1) 経営形態及び規模に見合った品種構成 (2) こしいぶきの計画的普及推進	・コシヒカリ作付率 80% ・こしいぶき 1,000ha
3 良質茎の早期 確保	(1) 健苗の育成 (2) 適正な栽植密度の確保 (3) 好天時の田植え (4) 保温的な水管理の徹底	・稚苗の育苗日数 20日 ・植え傷みの防止 ・有効分げつ終止期 6月15日(平坦地)
4 適正生育量の 確保	(1) 品種・土壌条件に見合った適正基肥(過繁茂の防止) (2) 溝切り・中干しによる生育調節の徹底 (3) 生育予測システム活用による生育診断	・コシヒカリ最高分げつ期 茎数 500~550本/m ² 草丈 45cm 葉色(SPAD) 36~39 ・溝切り時期 平坦地 6月10日めど 山間地 6月15日めど
5 病害虫の適正 防除	(1) 発生予察と要防除水準に基づく適正防除 (2) カメムシ類による斑点米発生防止のための雑草管理と適期防除の徹底	
6 1等米比率の 向上	(1) 地域版栽培指針に基づいた栽培管理の徹底 (2) 過剰生育の抑制(適正籾数確保、倒伏防止) (3) フェーン等緊急時の水管理の徹底 (4) 早期落水の防止 (5) カメムシによる斑点米防止 (6) 気象変動に対応し、積算気温と黄化籾割合を加味した適期収穫の励行 (7) 乾燥調製の適正化で胴割れによる格落ち防止	・m ² 当たり籾数 コシヒカリ 28千粒 ・登熟歩合、千粒重 コシヒカリ90% 21.5g ・落水は出穂後25日以降 ・整粒歩合85%以上確保 ・1等米比率 95%
7 食味の向上	(1) 食味を考慮した適正な穂肥施用(出穂前10日以降の追肥はしない) (2) 成分分析計を活用した栽培改善	・玄米タンパク質含有率 コシヒカリ6.0% (水分15%)
8 こしいぶきの 高品質・良食 味米栽培推進	(1) こしいぶき高品質・良食味米栽培指針に基づいた栽培管理の徹底	・m ² 当たり籾数 28千粒 ・登熟歩合 90% ・千粒重 21.5g

技術対策資料の発行

月日	資料名	内 容
3月27日	時期別技術対策資料12 - 6	<ul style="list-style-type: none"> 平成13年の暖候期予報と重点技術対策 適期播種・適期田植えの推進、多肥抑制、 生育調節と水管理の適正化、カメムシ対策、 土づくりの推進 育苗、本田準備の技術ポイント
4月26日	時期別技術対策資料13 - 1	<ul style="list-style-type: none"> 適期田植え(平坦地5月10日頃、中山間地15日頃) 田植え後の水管理 除草剤処理 病害虫防除(育苗箱施用粒剤の注意)
5月1日	少雨の管理対策	<ul style="list-style-type: none"> 農業用水の計画的活用(適期田植えの励行)
5月23日	時期別技術対策資料13 - 2	<ul style="list-style-type: none"> 水管理(少雨に対応した計画的な水利用) 早めの溝切り・中干しの徹底 病害虫防除(葉いもち粒剤の施用)
6月6日	生育早まりの管理対策	<ul style="list-style-type: none"> 溝切り・中干しの早期実施の徹底
6月20日	時期別技術対策資料13 - 3	<ul style="list-style-type: none"> 過剰生育抑制のための中干しの徹底 穂肥対応(幼穂の確認と適期・適正施用) 病害虫防除(葉いもち、カメムシ類)
7月2日	カメムシ注意報 - 1	<ul style="list-style-type: none"> 草刈りと薬剤防除の徹底
7月16日	時期別技術対策資料13 - 4	<ul style="list-style-type: none"> コシヒカリの穂肥対応(適期・適量施肥) 幼穂形成期～登熟期の水管理(間断かん水) 病害虫防除(カメムシ類、穂いもち)
7月18日	カメムシ注意報 - 2	<ul style="list-style-type: none"> 草刈りと薬剤防除の徹底
7月26日	時期別技術対策資料13 - 5	<ul style="list-style-type: none"> 出穂期～登熟期の水管理(間断かん水) 病害虫防除(カメムシ類、穂いもち)
8月20日	台風11号の管理対策	<ul style="list-style-type: none"> 排水対策の徹底と通過後の早生種の早期収穫
8月24日	時期別技術対策資料13 - 6	<ul style="list-style-type: none"> 適期収穫(刈遅れによる品質低下防止) 適正な乾燥調製(水分15%、1.85mm篩い目使用)
9月10日	台風15号の管理対策	<ul style="list-style-type: none"> 排水対策の徹底と通過後の早期収穫

技術対策会議等の開催

月日	会議等名	内 容
4月23日	「新潟米」推進運動幹事会	<ul style="list-style-type: none"> 平成13年の重点技術対策の再確認 適期田植えの推進、多肥抑制、 生育調節と水管理の適正化、カメムシ対策、 土づくりの推進
6月5日	「新潟米」運動第1回栽培 ・コスト部会	<ul style="list-style-type: none"> 平坦地域は「過剰生育」であることから、 早期の溝切り、強めの中干しを徹底
6月19日 ～22日	「新潟米」緊急地域技術対 策会議	<ul style="list-style-type: none"> 農政事務所ブロックの6地域で開催 中干しの実施状況と今後の継続 幼穂の確認と穂肥の適期・適正施用
7月12日	「新潟米」運動第2回栽培 ・コスト部会	<ul style="list-style-type: none"> 出穂予想と穂肥対応(適期・適量施肥の徹底) 出穂後の高温下管理(適正な水管理の徹底)
11月20日	「新潟米」運動第3回栽培 ・コスト部会	<ul style="list-style-type: none"> 13年産米の作柄・品質の総括 14年産米の品質向上対策徹底の確認

「新潟米」の品質向上に向けた課題について

本県産コシヒカリは近年、高温気象経過に伴って平坦地域では7月中の出穂が見られ、生育が「早生化」している傾向にある。このため、コシヒカリの生育を高品質・良食味が安定的に確保できる本来の「中生」に戻すことを基本に、本県における「品質保持の出穂早限を8月5日に設定」し、県内全域で8月5日以降に出穂させる技術対策を講じることが必要である。

また、籾数の過剰と品質には明確な相関があることから、高温気象下においてもコシヒカリの品質向上を図るため、茎数のとれやすい平坦地域においても、スーパーコシヒカリ栽培の目標どおり㎡当たり籾数を2万8千粒程度とする技術対策を講じることが必要である。

以上のことを踏まえ、目標品質（1等級比率95%、整粒歩合85%）に向けた品質向上取組を強化し、消費者の要望に応えられる高品質・良食味米を生産することが重要である。

2 今後の指導について

13年産米の品質低下を踏まえ、改めて課題となった品質向上の取組強化については、県内全域で早期着手がなされるよう、例年より3ヶ月早く「14年産米の品質向上対策について（気象変動に対応する新たな「新潟米」生産対策の徹底）」を関係機関・団体に11月に文書通知するとともに、「新潟米」運動栽培・コスト部会で取組徹底を確認した。

また、12月に新たな県版水稲栽培指針（暫定版）を作成し、関係機関・団体等に配布するとともに、県版指針に即して各地区で栽培暦等を14年産稲作指導（育苗指導会等）に間に合うよう作成し、普及活動、営農指導を通じて確実に現地への定着を図る。

一方、13年度から一般栽培を開始した「こしいぶき」については、生産者の登録、農協ごとの生産研究会の設置などを通じて、生産者に対する品質重視の栽培指導をさらに強化する。

さらには、直播を「低コスト・高品質栽培技術」と位置付け、大規模農家や生産組織に直播栽培を定着化させ、同一品種の熟期分散（移植栽培の刈遅れ防止）を図るとともに、早生品種はカントリーエレベーター、ライスセンター等の基幹施設に集中集荷し、色彩選別機による高性能選別で品質向上を図るため、施設の利用向上対策を一層徹底する。

以上の取組強化を進めることで、米品質の生産者・地域間差を解消し、出荷された米の品質、食味のバラツキを防止して、地域ぐるみの整粒歩合の向上など高品質化を図る。

表：栽培指針の改訂ポイント

項目	主な改訂内容
「新潟米」の品種選定	品種構成目標を「新潟米」を中心とした水田農業経営確立運動目標に整合（コシヒカリ作付率：70%）、こしいぶき等の新品種を追加。
「新潟米」の理想生育相	現在の県奨励品種の収量構成要素、時期別生育のめやすに再編。新規事項としてコシヒカリの理想生育相、こしいぶきの理想生育相を記載。コシヒカリは「一般地域」と「生育過剰になりやすい地域」の2種に類別。
土づくり	気象変動に対応する栽培技術として「土づくりの重要性」を拡充記載。
育苗	コシヒカリの出穂を品質を保持できる8月5日以降とするため、4月15日以降の播種、規格どおりの育苗を拡充記載。
本田管理	コシヒカリの出穂を品質を保持できる8月5日以降とするため、平坦地域は5月10日頃、中山間地域は5月15日頃の適期・適正移植を拡充記載。 溝切り・中干しの開始時期について拡充記載。 後期栄養の確保について、「こしいぶき」を追加するなど技術内容を拡充記載。
病害虫・雑草防除	病害虫・雑草防除について発生生態、防除法等の詳細を追加記載。
収穫・乾燥・調製	新たな刈り取り適期判定法を追加記載。